

緑の風 FAX版

NO. 20
2017年12月18日
JR東労組情宣部

JR東日本労連第27回定期大会

グループ間格差の是正に向け、「同一労働・同一手当・同一労働条件」をかちとろう!

2017年11月29日、ホテル・メトロポリタンエドモントにおいて、JR東日本労連第27回定期大会を開催しました。

154名の代議員の参加で16から発言があり、要員不足と、要員不足からくる問題について発言が出されました。

商業部会からは、アルバイト不足による店舗管理者の長時間労働の問題があげられ、背景には、低賃金と低い労働条件があると報告がありました。

整備部会からも、募集しても応募がない、採用してもすぐに辞めてしまう現実、また高齢の従業員が多く、それに伴い退職者も多くなっているのにも関わらず、採用ができないため、若手社員へのシフトが追いついていない現実があげられました。

設備部会、鉄道部会からは、高齢化や要員不足により、厳しい工程での作業となってしまう、若手社員への技術継承がままならない実態や、駅ビル部会からは、女性の働き方に関する問題があげられました。

これらの実態は全部会に共通している問題であり、早急に解決されなければならない課題です。

2017年はJR発足30年を迎える節目の年です。JRグループで働く仲間たちと組合員の雇用と利益を守るため、今こそ労使で国鉄改革の原点に立ち返り、組合員の利益を守り、会社の発展を目指していかなければなりません。

JR東日本労連は、結成の原点である「JRに働く全ての労働者が、対等にファミリーとしての成果を分かち合うこと」を再確認し、JR東日本労連に結集する組合員・会員の団結力で憲法改悪に反対し、平和な社会と安全第一の職場をつくり出し、労働条件向上と組織の強化・拡大をかちとるため邁進します。

